

静岡県の 学校図書館

令和7年1月発行
発行：静岡県総合教育センター
総務企画・ICT推進課生涯学習推進班
電話：0537-24-9715
メール：sogokyouiku-soumuict@pref.shizuoka.lg.jp

研修 報告

探究的な学習を支える学校図書館活用研修

令和6年11月15日、県総合教育センターでは『探究的な学習を支える学校図書館活用研修』を実施しました。

最初に、県立中央図書館・竹本主査の指導の下、端末を使用し、データベースやウェブページを用いた情報収集について演習を行いました。

次に、帝京大学教授・鎌田和宏氏から、「探究的な学習の意義と学校図書館の支援」と題して、探究的な学習における学校図書館の意義や活用方法についてわかりやすくご教示いただきました。午後は、情報カードの活用方法について演習を行いました。参加者は実際にカードを操作して分類や整理を行い、それをもとにプレゼン方法を検討、グループ内で発表を行うことで、実際の活用例を学び、理解を深めました。これからの教育に求められる「汎用的な資質・能力」の育成に向け、

情報活用や問題解決を支援する学校図書館の重要性を再認識する場となりました。

受講者からは「どのようにして探究的な学習を行っていけば良いか、とても参考になった」「先を見通すことが難しい将来を生きていく子どもたちに必要とされる問題解決能力を育てるために、探究を支える読書の指導を積極的に行いたいと思う。」などの感想がありました。



講座 報告

令和6年度みんなでつくろう学校図書館講座

令和6年10月22日、昨年度に引き続き横浜国立大学の石田喜美准教授を講師にお迎えし、沼津市立図書館にて「ゲームでつなぐ教室と学校図書館」をテーマに講座を開催しました。講義では、教室での学びとつなげやすいゲームの具体例や、ゲームを活用した読書指導、学校図書館との連携活動について豊富な事例を交えてお話いただきました。

参加者は石田先生のわかりやすく軽妙な語り口に引き込まれ、読書と本・新聞などの新たな可能性について考えを深めました。

午後の演習「ゲーム体験」では、「みんなで本をもちよって～Bring your own book～」や辞書を使ったゲーム「図書館たほいや」が紹介されました。どちらも子どもたちが楽しく本に親しむきっかけとして活用できるもので、参加者もゲームの魅力や実際の活用方法を体感しながら、大いに盛り上がりました。

参加者からは「ゲームを糸口に図書館をもっと利用してもらうための方策として大変参考になった」「楽しく実践的な講座でぜひ生徒たちとやってみたいと思った」などのほか、「会場が笑顔であふれ、参加者同士が仲良くなれた。本を読む以上の効果があると実感した」といった感想も寄せられました。



資料案内

授業や読書指導に活用できるゲームをセンター図書室に導入しました

近年、図書館におけるゲームの活用が注目されています。遊びを通じて思考力やコミュニケーション能力を養う教材として、国内外で教育現場にも広がりを見せています。

先日開催された「みんなでつくろう学校図書館講座」でも、ゲームを活用した授業や学校図書館活動について紹介され、参加者の皆さんに好評

でした。※講座の詳細は前頁をご参照ください。

この講座を受けて、センター図書室でも資料としてゲームを導入することになりました。教育の場で活用できるゲームは多くありますが、今回はその中から授業や学校図書館で活用しやすいと思われる2つを受け入れました。どちらもセンター図書室の閲覧室にあり、貸出可能です。教育の場の新しいアイデアとして、ぜひお試しください！

『広辞苑かるた』(フォーゲームズ)

あの『広辞苑』に載っている言葉を使ったかるたです。「単語の意味が書かれたカード」を読み上げて、取り手は意味から見出し語を推測し「単語カード」を取ります。楽しく遊びながら、辞書辞典に興味を持つきっかけになるかも。広辞苑の現物や他の辞書も用意して記述を見比べるなど、図書館ならではの遊び方もできます。
プレイ人数:3~10人 時間:15分 対象年齢:12歳以上



『みんなで本をもちよって ~Bring Your Own Book~』(株式会社ケンビル)

お題カードの質問に合う文章を手持ちの本から探し出して発表しあう大喜利系のゲームです。講座で実際にプレイしたところ、意外な本が大活躍、ユニークな回答が続出し、盛り上がりました。参加者からは「ただ読むよりも、本に親しみやすい」「授業で使いたい」との声をいただきました。
プレイ人数:2~8人 時間:20分 対象年齢:12歳以上



学校図書館情報

学校図書館オリエンテーションのすすめ ~新年度へ向けて~

学校図書館オリエンテーションは、学校図書館の役割や魅力、提供するサービス、ルールなどを紹介し、利用者に「図書館に行きたい」「利用してみたい」と感じてもらうことを目的に実施します。できれば年度のはじめに、全学年を対象に実施することが理想的です。4月当初に計画する場合は、前年度の3学期中に打ち合わせを行い、準備を整えましょう。

また、児童生徒だけでなく、教職員向けの利用指導を行うこともおすすめします。教職員に学校図書館の活用方法を具体的に提案することで、授業や学習活動での活用が進みます。図書館が学校全体の学びを支える重要な存在であることを実感してもらえるはずです。

【図書】

- 『はじめよう学校図書館11 心をつかむオリエンテーション』全国学校図書館協議会 2014年
- 『学校図書館ひらめきアイデアノート』少年写真新聞社 2019年

【雑誌】

- 『学校図書館』全国学校図書館協議会
- ・877号「きらり！学校司書・65 図書館オリエンテーションを考える」2023年
- ・855号「新年度に向けて準備しよう」2022年
- ・834号「4月は学校図書館オリエンテーション」2020年

【インターネット】

- 「学校図書館サポートのページ 学校図書館オリエンテーション」全国学校図書館協議会
<https://www.j-sla.or.jp/new-shishokyoyu/support/orientation/>

